

避難所と通学路の安全が明確になるまで
南成瀬小と南第二小の統廃合計画の延期を求めます **請願**

町田市立南成瀬小と南第二小を統廃合する計画には、「通学距離が延びてたいへんだ」「大好きな学校をなくさないで」「避難所はどうなるの」との声があがっています。本当に、このまま進めて良いのでしょうか。

1. 避難所の問題について

鶴川地域の避難所が決まっていなかったように、廃校となる予定の南成瀬小の地域も、避難所が決まっています。近くに代わりとなる公共施設也没有ありません。「学校の体育館だけでも避難所として残せないか」との要望には、「建物の一部だけ残せない」と冷たい回答でした。学校跡地の利用を希望する企業調査が終わっています。南成瀬小跡地は売られるのでしょうか。一方、統合校となる南第二小地域も、工事期間中の避難所が指定されていません。都立成瀬高校は、洪水・土砂災害ハザードマップでは、避難所になっていません。三年間はどこに避難するのでしょうか。工事をはじめるとはできないのではありませんか。町田市の市立学校は、地域防災計画の指定避難施設と位置づけられています。地域防災の拠点のはずです。避難所がはっきりするまで、学校の統廃合計画の延期を求めます。

2. 子どもに大きな負担を強いる通学距離・時間

学校が統廃合されると、子どもたちの通学距離も時間も延びます。審議会の答申は「直線距離で2^{キロ}30分」を児童・生徒の通学しやすさの目安としていますが、実際歩いてみると、直線の道はなく、信号あり、坂道あり、人通りあり、そのうえ重いランドセルあります。1.5^{キロ}地点から歩いてみましたが、30分では無理なことが実感できました。炎天下を長く歩くことになる夏は、熱中症が心配です。

南成瀬小からの帰宅時の路線バスは一時間に一本しかなく、乗り遅れたらどうすればよいのでしょうか。「スクールバスで良いじゃないか」「コミュニティバスで子どもは無料」(いずれも審議会での市長発言)、「黄色いボンネットのスクールバスを町田に走らせよう」(同教育長発言)は、どうなったのでしょうか。

学童クラブの子どもたちが帰宅する午後6時台に通学路を歩いてみました。遠くなった自宅まで、人目の届かない、薄暗い道を帰るのです。集団下校の考えもあるようですが、学童の子どもたちは15分単位で帰宅するため、無理ではないかと思われまゝ。集団下校をやるとしても、子どもたち、保護者、支援員、指定管理者を含めた、慎重な調査と研究が必要です。

通学距離が延びれば、交通事故や犯罪に巻き込まれる危険が増大します。「事故の責任は保護者」と突き放すのではなく、子どもの安全・安心を住民とともに守ってください。

3. 子どもに危険を強いる通学路の問題

通学路のことも知ってください。南成瀬小と南第二小は恩田川をはさんで南北に位置しています。通学路となる、会下山橋、西山橋には、高い擁壁を超えるという難題があるのです。会下山橋は下から見上げる大きな橋です。二か所ある近道が通学路案からはずされたため、橋を渡るには、橋の端から端まで、ぐらりと遠回りを強いられます。橋を渡り切って成瀬高校側へ渡るため信号待ちする通路の狭さが気になります。もう一つの西山橋の通学路は、南第二小の西の端に位置し、信号のない車道⇄歩道⇄橋⇄歩道⇄車道を渡ると、高い擁壁に直面します。階段を57段上ります。すると、また車道があり住宅地に入りますが、ここでも大人の背丈よりもはるかに高い擁壁が両側にあり、その上に家が建っています。人目がまったく届かない一角です。夜は街灯も少なく、暗い道となるため、この通学路は適切ではないと思われま

す。ほかには、恩田川沿いを歩くなどして、はるか彼方に見える扇橋までいかねばなりません。扇橋は、車二台がすれ違えば歩道がふさがり狭い橋です。車は時間制限で交互通行にでもしないと接触事故が心配です。

このように、子どもたちは、毎日、たいへんな負担を強いられることになります。通学路の安全と、住民の避難所が明確になるまで南成瀬小と南第二小の統廃合計画を延期していただくよう、慎重な審議をお願いいたします。

請願項目

- ① 子どもに負担を強いる通学路について安全性が確保される通学環境になるよう見直しを求めます。
- ② 避難所と通学路の安全が明確になるまで南成瀬小と南第二小の統廃合計画の延期を求めます。